

ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会(福井県)の概要

日時：令和6年3月1日（金曜日）

場所：北陸農政局福井県拠点2階共用大会議室

令和6年3月1日、「食料安全保障・食料自給率の現状と課題」を本年度のテーマとして、福井県内の消費者団体5団体から計7名の方々を招いて意見交換会を行いました。

以下、その概要についてご紹介します。

北陸農政局本田局次長から、令和6年能登半島地震で被災された方々に対する御見舞いの言葉、被災者支援活動の取組に対する御礼の言葉を述べた後、「北陸農政局では消費者の視点に立った施策を推進することを目的に、消費者団体の皆様と意見交換を実施しており、日頃感じている農政に対する忌憚のない御意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。」と挨拶しました。



【開会挨拶する本田局次長】



【説明する大臣官房政策課
食料安全保障室河野企画官】

先ず、各団体の方々から日頃の活動を発表いただきました。おいしいふくい食べきり運動の展開（食品ロス削減、ごみ減量化、幼保園での食育活動等）、地産地消、エシカル消費の推進、テーマを決めた学習会や商品テスト（洗濯用洗剤、オリーブオイル、体温計等）、消費者講座（遺伝子組み換えやアレルギー表示等）及びリーダー養成講座の開催、大学生への食料支援、防災サブスク、産直バスツアー交流会、児童館で紙芝居やカルタを使った消費者教育、学校給食の野菜くずでたい肥づくり、防災学習会、食の自立支援活動（高齢者の介護、内脂肪型の肥満等）、福井100彩ごはんのメニュー支援、災害支援（JDA-DAT）等について発表があり、その後、情報交換し交流を深めていただきました。

次に、大臣官房政策課食料安全保障室から「我が国の食料安全保障をめぐる情勢について」をテーマに、食料自給率の基本的な考え方と推移、日本型食生活など食料消費構造やその変化といった変動要因及び向上に向けた方策、世界人口の増加、気候変動、輸出規制

など食料需給を不安定化させる要因の多様化と影響の深刻化等について、説明を行いその後意見交換を行いました。

出席された皆様から、多くの意見等をいただきました。主な内容は以下のとおりです。



【意見交換会の様子】

○食料安全保障関連

- ・日本型食生活について、日本全体というよりも地域ごとの望ましい食生活を仕掛けていく必要があると思います。地域の特性に合った食生活を、地域ごとにモデルケースのようなものを作成し、啓発していけば、地産地消の推進、しいては日本の自給率向上につながるのではないかと考えます。
- ・2024年問題で輸送コストは値上がりし、県外からのものが高くなる可能性があると思います。できるだけエネルギーをかけない商品が重要な視点になっていくと思います。

- ・「食料自給率は38%」とカロリーベースでの数字が定着しているので、生産額ベースの数字がわかりにくいと感じます。また、市町村が作成する推進計画でもカロリーベース、生産額ベースの二本立てで作るようお願いしています。消費者にもわかるような説明をお願いします。
- ・栄養士は、食料経済学で「輸入飼料で生産された肉類は国産にカウントされない」ことを学びますが、消費者は自給率が低いことだけが強調され、危機感をあおられているように感じるのではないかと思います。食料自給率について、もっと詳しく説明していく必要があると思います。

○その他のご意見

- ・購入した商品がどこでとれて、どのような経路で私たちに届くのか、そして私たちが捨てたものがどこでどのように処分されているのか。そのことを意識することが必要で、見えてなかった部分が見えるようにし、見える化による情報提供が必要だと思います。
- ・消費者は、まだ価格でしか商品を選ばないという傾向にあると思います。
- ・値段の高いものであっても、良いものであれば消費者は買うと思います。
- ・環境問題は、教育現場で進んでいて子供たちの方がよく知っています。逆に大人が教えられていることもあります。
- ・ニッポンフードシフトの動画がわかりやすかったので、ショートバージョンがあれば関心層も増え、浸透していくのではないかと思います。



【意見交換会の様子】

○能登半島地震復興支援関連

- ・昆布、しょうゆ、化粧品など取り扱っている商品の物資支援や見舞金を送付しています。長く継続した支援をしていきたいと考えています。
- ・支援金の募金継続と石川県からの要請による物資支援、インフラの復旧が進めば、炊き出し支援を行っていききたいと思っています。
- ・避難所での食料は、発災から1～2週間たっても炭水化物中心の支援で、野菜やたんぱく質が摂れないと聞きました。食料備蓄の中に、野菜ジュースや大豆の缶詰、ドライパックなどを保存するようアピールしてほしいです。



【意見交換会の様子】

- ・栄養のことを考えれば、たんぱく質やビタミン類を摂っていただきたいが、発災後1か月では食べることで精いっぱい、食べたいものを食べる、選ぶ状況にあります。
- ・上下水道が復旧されていないなかで、排泄も問題で、食べる量自体を意識的また無意識的にも制限してしまうことを心配しています。備蓄食のなかには、おかず系ものがありますが、常温で食べるには美味しくないものもあり、加熱に必要な電気・水・ガスの復旧が進まないと手が出にくいことになります。また塩分が高く、食品開発の改善が必要と感じます。

農林水産省から

- ・食料自給率として38%の方が浸透していますが、農林水産省としては、努めてカロリーベースと生産額ベースの両方を公表しています。併せて、数字の意味、増減の要因についても説明が必要と考えています。
- ・自給率という数字だけで、一喜一憂したり、それだけで食料安全保障が語られているところにリスクがあると思います。肥料がカロリーベースに反映されていないことも含めて、政策目標としてその数字を掲げるならば、消費者に伝わるように説明していきたいと思っています。
- ・本日御覧いただいた動画のショート版はありませんが、餃子等をモチーフにした2～3分の動画を紹介します。



【閉会挨拶する森下消費・安全部長】

○カレーから日本を考える。(1:55)

身近なカレーも、使用される食材を一つひとつひも解いてみると! ?

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/curry/> (外部リンク)

○餃子から日本を考える。(2:31)

餡に使用される具材、一つひとつの食材の背景から我が国の食や農をめぐる諸課題を垣間見てみると…

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/gyoza/> (外部リンク)

○おにぎりから日本を考える。(3:00)

各地の特産品や地域の食文化と結びつきも！使用される食材から日本の食をめぐる課題について考えてみましょう。

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/onigiri/> (外部リンク)

○意見交換時にご覧いただきました動画のリンク先もご案内します。

[NIPPON FOOD SHIFT とは？ | 食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT \(maff.go.jp\)](https://www.nippon-food-shift.maff.go.jp/)

(8:00)

いつでもどこでもご覧いただける動画です。「食」に関するお話の際は是非ご活用ください！

なお、動画を利用される際はお手数ですが下記フォームからご一報ください。

(意見交換会時にはご案内しておりませんが、動画使用申込フォームへの入力が必要です)

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/nfsmovie.html>

・「災害時に備えた食品ストックガイド」の2～3ページには家庭備蓄の例のなかに野菜ジュースや肉や魚の缶詰等、また、4ページ以降の「備蓄食品の選び方」にも写真付きで、果物とかドライフルーツとか、日頃から備えていただくための資料もありますので、日常の活動の中で活用ください。

・能登半島地震の復旧・復興支援については、中長期的に行っていく必要があります、消費者団体の皆様からの息の長い御協力をお願いしたいと思います。

最後に、北陸農政局森下消費・安全部長から、「北陸農政局として、団体の皆様同士や皆様の活動のつなぎ役になればと思っています。引き続き、このような場を設定していきたいと思っていますし、様々な情報の提供、皆様からも情報共有いただければと思っています。」と挨拶し、意見交換会を閉会としました。

意見交換会出席者

【消費者団体】 (5団体、7名)

福井県連合婦人会、福井県消費生活研究会、
公益社団法人ふくい・くらしの研究所、福井県消費者グループ連絡協議会、
公益社団法人福井県栄養士会

【講師】

農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室

【北陸農政局】

北陸農政局次長
北陸農政局消費・安全部長
北陸農政局福井県拠点地方参事官
北陸農政局消費・安全部消費生活課長 ほか